

# くろーず あつぷ

「アルゼンチンタンゴは誰もが気軽に楽しめる音楽。クラシックのようにかしこまらず、もっと気軽に楽しんでほしい」

「クアルテート・プロビンシア・デ・スール」。訳すと「県南四重奏団」。その名の通り県南在住のミュージシャンで構成するアルゼンチンタンゴ・バンドだ。

リーダーの石沢美都さん(バイオリン)は、つくば市出身。このほか、土浦市の啼鵬さん(バンドネオン)、龍ヶ崎市の山本不二さん(ピアノ)、取手市の倉持敦さん(コントラバス)が参加している。

石沢さんはアマチュアオーケストラに入っていた母親の影響で5歳でバイオリンを始めた。小学校2年生のときに

## ■バイオリニスト

### 石沢美都さん

# 音楽、気軽に楽しんで

は「素敵なドレスを着たかった」こともあり、すでにプロのバイオリニストを夢見ていた。

念願かない、大学卒業後は東京交響楽団に入団。現在はフリーの奏者としてオーケストラやソロコンサートなどで活躍している。日々の活動で、「小さな会場では客に奏者の息づかいまで伝わる。この距離感や初めて生の演奏を聴いた客の感動を大切にしたい」と感じるようになった。

地元・つくばの人たちにもっと気軽に音楽を楽しんでもらおうと、旧知の啼鵬さんに相談したところ快諾を受け



「もっと気軽に音楽を楽しんでほしい」と話す石沢美都さん

た。「東京からメンバーを集めてはつまらない」と、地元在住者でバンドを構成することに。

今年夏にはメンバー4人がそろった。だが、それぞれのスケジュールが忙しく、打ち合わせやリハーサルの時間もままならない。ようやく初ライブを開催したのは11月になってからだった。

ライブはキャンセル待ちでも入場できない人が出るほどの盛況ぶり。「お客さんのノリも好意的で『なるべく早くまたやってくれ』『絶対また来るぞ』などの言葉がうれしかった」と顔をほころばせ

る。その半面、悩ましい状況もある。「4人それぞれのスケジュールがびっしりで、ライブの『打ち上げ』もできない状態。何とか調整してなるべく早く4人の地元でライブを行い、茨城全体に活動を広げていきたい」と地元での活動に夢をふくらませている。

(篠崎理)

いしざわ・みと 昭和46年9月、東京生まれ。生後半年でつくば市へ転居。竹園高、東京学芸大音楽科卒業後、東京音大研究科修了。東京交響楽団に第1バイオリン奏者として入団。同時にソロ、室内楽活動にも取り組む。現在「クアルテート・プロビンシア・デ・スール」のリーダーを務める。つくば市梅園在住。